

発行所 医療法人財団五省会西能病院 〒930 富山市五福1130 TEL (0764) 41-2481(代) 発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

五省
一、至誠に悔むなかりしか
一、言行に恥づるなかりしか
一、氣力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に怠るなかりしか

よりよき 病院医療への驀進

福岡市で第37回日本病院学会

西能病院から9人が参加

「よりよき病院医療への驀進」をテーマにした第三十七回日本病院学会(学会長・土屋昌武 生会福岡総合病院院長)は七月十三日から十五日までの三日間、福岡市の福岡郵便貯金会館をメイン会場として開催された。一般演題百九十題、齊藤厚生大臣や作家、遠藤周作氏の特別講演、パネルディスカッション、シンポジウムなどで、理想の医療を目指す悲願をこめて、語り合ひ、学び合った。西能病院から西能院長ら九人が参加、四演題を発表、西能院長(日本病院会常任理事)は、シンポジウム「今後の地域医療について」のシンポジストをつとめた。

地域医療計画は民間活力を沈静

西能院長がシンポジストに

シンポジウムの西能院長の発言要旨は次のとおり。 今回の医療法改正に続く地域医療計画の目的とするところは、病院病床の削減を絞ったものであり、地域の医療供給体制の平均化は、それを包むべしに過ぎない。 日本医療供給は、民間医療機関が主体となつて構築され、公的病院がそれを補充する立場でバランスが保たれて発展してきたのは歴史的事実である。今病床数を棒を減らし、新規参入をガードする事は、競争原理に反すると思われぬ。 更に第二次医療圏の策定は、基幹病院となる公的医療機関の救済策となり得るが私的中小病院の急激な地盤沈下を招き、

反省

西能 正一郎

これから舵取りをあやまらず

敗戦後、国を支える人材を育成が目的

私共の海軍兵学校の入学試験は昭和19年の夏、富山市の神通中学(現、富山中部高校)で行われました。当時の旧制中学校では、目ぼしい生徒には先生が積極的に受験をすすめましたので、県下の俊秀が集まりました。私が受験すると、先生が驚いたような顔をされましたが、中学二年頃から心に決めていたもので、父母が遠慮するのを無理にお願いして受験させてもらいました。海軍兵学校の入学試験は三日間でありましたが、独特な方式で、どの日も試験は午前中だけ、第一日目と第二日目は、午後五時頃までに、その日の答案の採点をして、基準点に満たない者を振り落としてしまうのです。ですから、第一日目の夕方には校庭に貼り出された受験者名簿に次々と赤線が消されて、翌日の受験資格のない人が出ました。第二日も同様ですから、最後まで生き残ったものは二十人に一人位であつたでしょうか。一つの

発表の四演題

西能病院が発表した四演題と発表者はつぎのとおりである。

- ▽「外来看護サービスを考える」(QCサークル活動を通して)看護部
- ▽塚原博子▽「重症熱傷患者の看護」看護部・服部真知子▽「反復性膝蓋骨脱臼術後の理学療法」経験▽リハビリテーション部▽古井良洋▽「嗜好調査、過去二十年の流れ」栄養部・石黒芳美

あすなろ

先日、博多で甥の結婚式に参列した。媒酌人は「西部ガス」の役員の方だったが、当然「セイブガス」と思っていたら、これが「サイブガス」と読むのだそう。西能病院はサイノウなのだから西部がサイブでも不思議ではないのだから日本語の読みは難しいものだ。詩人の土井晩翠はツイイだったのだが、周囲の者がドイとしか呼んでくれないので、とうとうドイに換えてしまったという話是有名だ。常用漢字では「サイブ」が「セイ」と読ませている。それなら当然、姓の齋藤はサイトウ、斎藤はサイトウのはずだが、斎の方もサイトウと呼んでいるようだ。常用漢字といえども「サイブ」という字について富山市の国文学者、志田延義博士が面白いことを書いています。今のタタミは畳と書く。しかし戦前は住宅事情がよく一戸の畳数の平均が十二畳もあつたので、四畳の間を表す「田」を二つ並べ、畳と書いた。それが戦後はウサギ小屋の四畳平均になつたので田一つになつたという笑話。独壇場という文字がありドクダンジョウと読んでいます。これは本来、ドクセンジョウで独壇場と書いたのがいつか壇と書かれたものらしい。同じように独壇が正しいのに仏壇と書く人がだんだん増え、ある地方では申し合わせて「木へん」に統一したそう。志田博士は「世も末世」と慨嘆している。

医療福祉相談の手びき

精一杯生きていくことも社会復帰

M・Sさんの闘病記を拝見して

今回は、脳卒中後遺症患者の社会復帰について、一患者さんの姿をおして考えてみたいと思います。

M・Sさん 60才

S58・12発症 脳出血、右片麻痺

当院入院歴 1回(期間1年3ヵ月)

以後、外来通院(1/W回)

・社会福祉資源利用状況

身障手帳2級、共済年金受給

自動車税減免(家族運転) 手続

短下肢装具、四点杖作製(身障手帳より)

・自費で、トイレ、風呂改造、滑車、斜面台設置。

M・Sさんに、お願いして「私の闘病記」を書いていただきました。そのなかで、M・Sさんは、毎日、自宅で欠かした事のないリハビリ訓練の様、奥さんやお嫁さんの協力に感謝しながらも、それに甘えてはいけなさと自分を戒めておられる姿、当院を退院後、なんとかふた冬を自宅でのりきった喜び、自信について述べておられます。

又、自分の障害は、今以上に良くなるとは考えられないが、毎日のリハビリ訓練と日常生活のなかで今の状態を維持し、機能低下を防いでいるという一文から、自分の障害に対する受容がうかがわれます。最後のしめくくりとして、今後自分の生きがいを見つけ、生活の幅をひろげたいと述べておられますが、そこからは、自分が家族の一員として十分に社会復帰を行なっている姿をうかがい知ることが出来ます。

このM・Sさんの闘病記を拝見して、社会復帰というのには、何も仕事をすることだけではなく、社会の中で、家庭の中で、精いっぱい生きていくことよりも、社会復帰ではないかと思われました。M・Sさんは、この闘病記をおして、私達に、社会復帰とは何かを教えてくださいました。身体に障害を残して在宅療養に移される患者さんに、社会復帰とは何かを、我々が語るより、このM・Sさんの姿をおして、社会復帰の意味を感じとっていただけたらと思います。(M・Sさんの闘病記については、いずれこの紙上で発表したいと思います。)

(医療ソーシャルワーカー 高村美和子)

健康法の問題

矢野 三郎

現在85歳で、なお現役として活躍しておられる元日本弁護士連合会長、渡部嘉十郎氏より興味あるお話をうかがった。それは、人生には二つの事業がある。一つは健康であるという。男の場合、仕事を人生の事業として真剣に取り組んでいる人は多いが、健康を仕事に、仕事と同等に人生の事業としてとらえている人は少ない。

規則正しい生活を

健康法の基本原則は単純

普通化できない条件というものは歴史の中にたくさんある。長寿者に健康法をきくと、いかにも整然とした方法で今日の長寿をかけたような感じがするが、それは一番大切な、何もかもが忘れられている。健康を保つ上では、本人も意識しない条件がある。その方が実際の健康法よりも重要で、しかもこの条件は万人に共通する普遍的な原理ではないから、まねることができないのである。

杖にたよらない喜び

諸先生のおかげと、親切に感謝



津田 長政(七八) 一日も早い社会復帰を望み、西能病院に入院した立山町横江



大島 佐登美 看護部

私は近所の医院に通院していましたが、娘が「お母さん、新聞にでてあるわよ。いっぺん大きな病院で検査してもらいなさいよ」と無理解に、西能病院につれてこられた。そして昨年十一月ごろから入院し、十一月十五日、入院してからは、その時は、ベッドの上にもあがれない始末でした。近所の人は近くに、あんな遠い病院に入院するとは変人だ、かといって、自分勝手な責任のある行動をとり、果たした看護士さん、私には人さまになんと言われようと、退院したあ

友だちになりました

金 明照



ビーチボールを楽しむ金先生

五月十四日、西能病員の運動会に出場しました。場所は神通川の川原にある運動場。天気があまらよくありませんでしたが、みんな、元気にがんばりました。私も楽しかった一日です。私も楽しかった一日です。私も楽しかった一日です。

ねんりん

西能病院のあゆみ

中島 話の前にどうぞ。昭和十五年に企業内保育所が設立されました。はじめは、二階で、車庫の裏、最初は車庫の二階につくられた。狭くなったので近くの民家を借りた。ミルコばかりだったので、おっぱいはやりませんでした。これは、看護婦を確保するためでした。そのころ企業内保育所というものは、あまりなかった。K N Bが撮影したくらいでした。多いときで、十人ぐらい

わたしはこう思う

はじめに

今回のゲストは福田勲太郎さん。昔計に富む経営者、素早い行動力で経済界に異名を売った福田さんはそれを隠そうとはしない。いや、むしろその話になると、どこまでも知らない。いま、開病第四回中だと笑うが、病気を克服することを、自分を支えるエネルギーにしようとしたことが伝わった。

がんと闘う

福田 大きな病気といいますが、三十年前になりました。二十年前に立中央病院に入院して、多賀先生が院長のときで、そこで肺結核と診断されたんです。

信頼関係がまず優先 医師はアフターケアに関心を

福田 がんをわずらうて検査先生に治してもらったんです。あれは昭和二十六年、七七年だったかな。その後、私が大病お世話になった山田昌作さん(元北陸電力社長、S38・2・25没)直腸がんで癌研で手術したんです。癌研で手術したんです。癌研で手術したんです。



「日本の医者はアフターケアが苦手のようですね」と福田さん(右)。(左)は西能院長。

わたしはこう思う 福田さん(右)。(左)は西能院長。福田さんは、がんをわずらうて検査先生に治してもらったんです。あれは昭和二十六年、七七年だったかな。その後、私が大病お世話になった山田昌作さん(元北陸電力社長、S38・2・25没)直腸がんで癌研で手術したんです。癌研で手術したんです。癌研で手術したんです。

奥さま 社会見学

清潔で明るい あふれる奉仕精神

暮らしに役立つ情報を学ば恒例の「奥さま社会見学」(富山新聞主催)の一行五十七人が六月九日午後、西能病院を訪れた。

五階ホールで、光里事務部長から病院の概要の説明を受けたあと、西能

頸椎脊柱管狭窄症 との戦い

荒井 紀夫

今まで長く後頭部の痛、と、両上肢、特に左右の上腕二頭筋と右三角筋を主体とし、肩甲帯の筋力低下があったのが、今年二月十日ごろから急に痛みも、筋力低下も強くなってきた。

とくに、後頭部肩甲帯、第七胸椎あたりを中心に背部の痛みが強くなって、夜も背臥位で眠れず、側臥位でしか寝れない。また風呂に入っても少しも楽にならない。今まで飲んでいた薬もきかなく非常に苦痛になってきた。

筋力低下も、今までの他に、左上腕三頭筋を中心に左右上肢全体に力が入らず、片マヒの患者さんの上下肢がますます重く、足関節の矯正もできなくなり、握力は左14、右25におちてきた。そのうちに、いつものように、

手術を決意 母が涙ながら「かわれるものなら」

荒井 紀夫

すこしは楽になるだろうと、がまんして仕事をづけける。

二月十四日、仕事がつらくて、どうにもがまんできない。痛みだけなら、五十七年十二月から丸四年三カ月間、強弱はあったが、一日もとれたことはなかった。それだけに、痛みだけはがまんもできる。

一家の大黒柱であり、また、リハビリの課長という立場が、そうさせてきたのである。

らも地域医療のため努力を重ねていきたいと思っております」の挨拶をうけた。

一行は四班に分れて各室を熱心に見て回った。見学者は「病院内の隅から隅まで設備が整っており清潔で明るいのに感心した。」「病院内に奉仕精神があふれており、出会った看護婦さんたちがみんな会釈され感じがよかったです。」「病院特有のにおいがなく、ホテルのような感じで、患者さんの表情も明るかった。」「などの感想をのべていた。

しかし、今の痛みの強さは、それ以上に激しく両上手に力が入らなく、仕事が満足にできない。患者さんに対して申しわけなく思う。この状態で、患者さんを治療させてもらうことは失礼にあたる。いよいよ手術の時がきたと感じる。母に女房にそして子供たちに、そのむねを話す。母に三、六カ月かかるといって、「自分がかわれるものならば」と涙をながす。私にとつて、やはり頼りになるのは女房である。

三年前に当院で女房がヘルニアの手術をしたことがある。(西能病院リハビリテーション課長)

五月

カリリー制限 試食会

十五日 栄養部は小会議室で通院患者十人の参加を求めてカリリー制限の試食会をひらいた。(写真左)

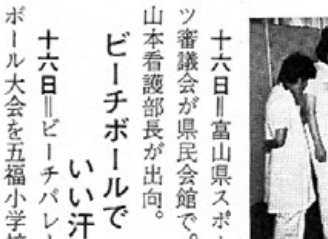
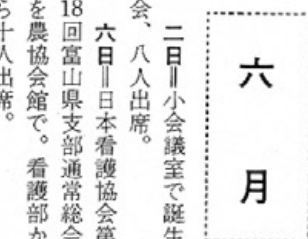


二十三日職員運動会を富山大橋上流の運動場(神通川右岸)で開いた。そのあと川原のパーベギューで舌つづみをうった。(写真左)はタイヤころがし)

六月

二日 小会議室で誕生会、八人出席。

六日 日本看護協会第18回富山県支部通常総会を農協会館で。看護部から十人出席。



十六日富山県スポーツ審議会が県民会館で。山本看護部長が出席。

二十七日 日本看護連盟富山県通常総会が看護研修センターで。看護部から五人出席。

七月

西能院長が 暁天講座に

九日 県民大学校暁天講座で、西能院長が「生きがい」について講演。

特別養護老人ホームを見学

十四日 十六日 山本看護部長、川西婦長、坪内主任の三人が、奈良県の国見苑(特別養護老人ホーム)を、介護をテーマにして見学した。

十九日 互助会の慰安旅行。大牧温泉。

二十一日 小会議室で誕生会、十三人。

ストレスについて

二十四日 五階ホールで健康教室。「ストレスについて」担当者山本看護部長。



昇格人事 (七月二日)

江尻栄子(看護部主任) ↓看護部部長 鏡賀(レントゲン室主任) ↓レントゲン検査室課長 鏡政行(レントゲン室) ↓レントゲン室主任 杉田正治(庶務課主任) ↓総務課新設課長心得 平井幸二(経理部) ↓経理部課長心得

◆新しい採用職員

中永久光(財団五省会企画管理室) 新設課室長 (渡辺裕之(渉外課、課長心得) 小林稜(医事課課長心得) 伊藤勝仁(医事課員))

消火器で 消火訓練

二日 消火器を使った消火訓練を九十人が参加して病院構内の広場で。新人は真剣な表情で操作していた。(写真左上)

盲学校生徒が 実習

九日 十一日 富山県立盲学校の生徒十三人(付きそい六人)がリハビリテーション部で、リハビリの実習を行なった。(写真左)



地域の皆様とともに歩む

診療科目のご案内 西能病院

★一般受付時間(但し、日曜・祭日は休診です)

診療科目	曜日	午前の部	午後の部
整形外科	月～土	8:30～12:00	16:00～19:00
リハビリテーション科	月～土	8:30～12:00	13:30～19:00
内科	月～土	8:30～12:00	15:00～17:00 (但し、月・水曜日は休診)
スポーツ外来	毎週火曜日	※スポーツ障害の治療やスポーツ相談	
神経内科外来	毎週木曜日	14:00～17:00	
循環器外来	毎週金曜日	※心臓病疾患、腎臓疾患でお困りの方はご利用下さい。	
泌尿器科外来	毎月第2・第4土曜日	13:30～17:00	
形成外科	毎月1回	8:30～12:00	※診療日は受付でおたずねください
在宅療養活動	毎週水曜日	※(在宅酸素療法を含む)	

★当病院では、

年中無休

いつでも、診療ができるように24時間体制で、チームを編成しています。



もし、救急車が必要でしたら要請して下さい。お迎えに上ります。常時2台待機しています。